

城取博幸の

江戸、東京の研究「深川」「江戸東京たてもの園」

N0144

2021年11月

城取フードサービス研究所

城取 博幸

### 江戸のSDG's「深川江戸資料館」

2021-11-07 17:03:41

江東区「深川江戸資料館」

東京都江東区白河1-3-28

残念ながら11月より改装のためしばらく閉館 間に合ってよかった



地下鉄大江戸線「清澄白河駅 A-3」徒歩3分



検温と消毒が同時にできる機械



横綱大鵬コーナー



白鳳は大鵬を尊敬していた



大鵬の髷(まげ)



## 深川に related した人物

### 伊能忠敬



### 佐久間象山



# 江戸の町の復元

屋根の上で猫が動いている(電動)



# 江戸時代へタイムスリップ

街並みマップ



左が大店(おおだな)「多田屋」

干いわし、𧄀粕(肥料)、魚油(灯油)などを扱う食品問屋



防火用水

雨水を溜めていた



## 八百屋

季節の野菜の他、漬物、こんにゃく、たまごなども並んでいる



## 案内版



漬物樽



つき米屋

米問屋から仕入れて庶民に米を売っていた

手前は玄米



唐臼という器械で精米していた



足踏みのシーソーのような仕組み



猪牙船(ちょきぶね)

海運は江戸の大動脈

船の先が猪の牙のように見えるためそう名付けられた



火の見櫓(やぐら)



最上階には半鐘があり、火の手が上がると番人がこれを鳴らして町に知らせる  
火事の遠近によって鳴らし方が違った



虫を売る屋台  
鈴虫や興梶を虫籠のに入れて売っていた  
なんでも商売に結び付けてしまう



そば屋の屋台



担いで移動するため、今のキッチンカーよりエコ



いなり寿司屋台



天ぷらの屋台



菜種油や胡麻油は高額であった

江戸前の魚を「いわしの魚油」で揚げていたため、臭いがくつかったという

そのため、大根おろしや生姜で臭いを消していた

化け猫はなぜ行燈の油を舐めたか？



それは行燈の油がいわしの油であったため臭いで分かった

船宿



猪牙船を使って、船頭が人や荷物を運搬していた  
船宿は飲食や宴会もできる小料理屋



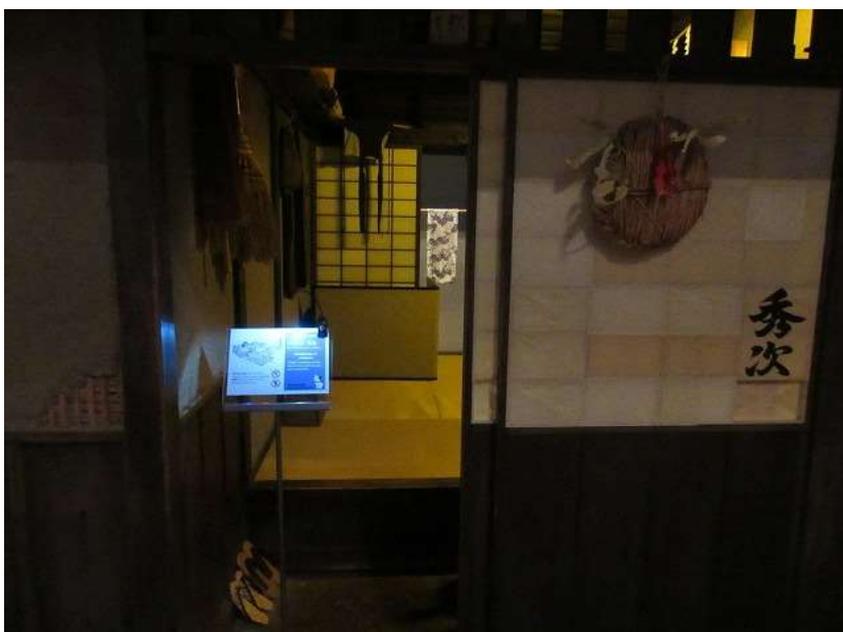
上方から送られてきた酒樽



台所



米屋の職人「秀次」の長屋



妻と子供の三人暮らし



長屋の共同スペース

手前は井戸だというが違和感がある

つるべがない 杓子の竹の長さも2mほど

水を溜めるにもどこから水を運ぶのか



「プラタモリ」でそれを解説(江戸東京博物館)



江戸の町には地下上水道が完備されていた(江戸東京博物館)

右下は「地下水」ではなく「地下水路」



多摩川の上流から 40kmも江戸に水を運ぶ水路を造った

玉川上水は「玉川兄弟」が現場監督を行ったことからその名前がつけられたという



総延長 150km

深川(右下)は隅田川をまたいでいるため「亀有上水」であった



井戸、便所、稲荷神社、ゴミ捨て場



便所



ここでも「金隠し論」を展開



ゴミ捨て場

ゴミが非常に少ない



江戸のリサイクル、リユース

「紙屑ひろい、木ひろい一切を禁ズ」

長屋の入口には柵があり、このような張り板が



歴史から学ぶ NHK テレビ「歴史探偵」より

見られた方も多いと思います

金曜日にも再放送しているため4回目も見てしまった



江戸時代後期には「SDG's」が完成していた



江戸の人口は 100 万人 世界で一番人口に多い都市であった  
世界でもトップクラスの経済成長率であった  
イギリスは産業革命で公害に苦しんでいた時代  
江戸の町はゴミ一つ落ちていなかった



江戸時代はなぜ 260 年続いたか



つくる責任、つかう責任

「持続可能な消費、生産」が完成していた



家康は上方から佃煮職人を連れてきて佃島に住ませた  
深川のアサリは「佃煮」や「深川めし」に使われた  
アサリは「むき身」として売り歩き、貝殻も売れた



貝殻のリサイクル

貝殻を焼いた「貝灰」は「漆喰(しっくい)」として使われた  
姫路城外壁は漆喰が塗られている



灰は



「灰買い」



「灰」は焼物の釉薬(ゆうやく)として使われた  
山菜のあく抜きにも使われていた



「木拾い」  
銭湯に売られていた



「紙くず買い」

再生紙として使われた



「ろうソクの流れ買い」

ろうソクの燃えカスを再生して新しいろうソクを作っていた



「古傘買い」  
修理して再販



「排泄物買い」  
良質な肥料として使われた  
絵がおもしろい



排泄物ビジネスは現代価格で 40 億円  
公衆トイレもつくられて、江戸は衛生的な都市であった  
武家と長屋の排泄物は値段が違ったという

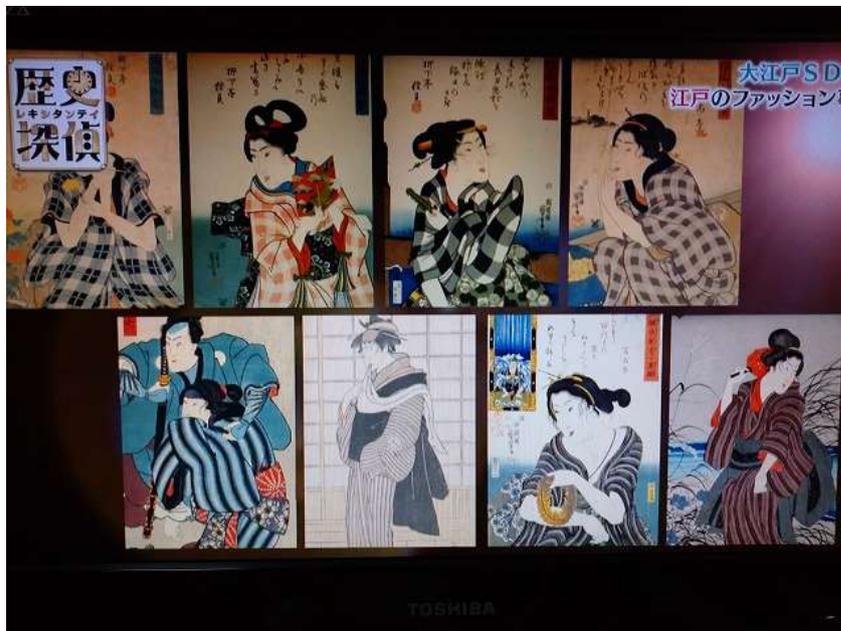


「古着屋」  
庶民は古着を着ていた



「島柄」がブームに

島柄の由来は、セイロン(現在のスリランカ)からの反物の輸入から  
日本では綿花が多く取れなかったため



法政大学名誉教授(江戸文化)研究の「田中優子」氏の話

「お金が動く、循環する」ことで経済が発展する

今はお金を払って処分するが、江戸ではただかお金をもらって処分  
チリ紙交換にその名残であった



「アップサイクル」

回収してきたゴミに付加価値をつけて売ることを最近「アップサイクル」と言う

江戸時代の飢饉 享保、天明、天保 それに幕末の大飢饉

凶作の原因は雨が多く気温が低かったこと

飢饉の20年～30年前は温暖な気候で米は豊作、人口も増えていった

赤線は「百姓一揆」の発生件数 特に幕末に多かった

島崎藤村の「夜明け前」にも詳しく書かれている



その中、「享保の飢饉」には百姓一揆が少なかったのは？

「享保の改革」 八代将軍「徳川吉宗」が救済米を西日本に放出したことによるもの



## 「天明の飢饉」の仙台藩

仙台藩は藩の財政を立て直すため、備蓄米を売り払ってしまった

翌年も長雨で凶作となったため 15 万人が餓死

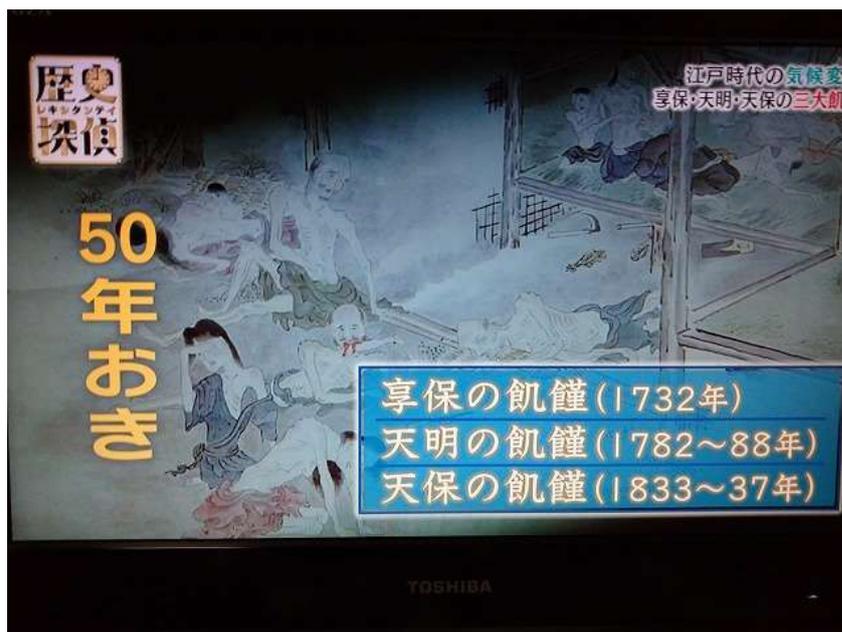
凶作は 4 年、5 年も続いたという

それに対し、米沢藩、庄内藩は節約に努め、米を備蓄していたため餓死者はゼロと言われている

米沢藩藩主「上杉鷹山」の質素節約、食べられるものの手引書「かてもの」は有名

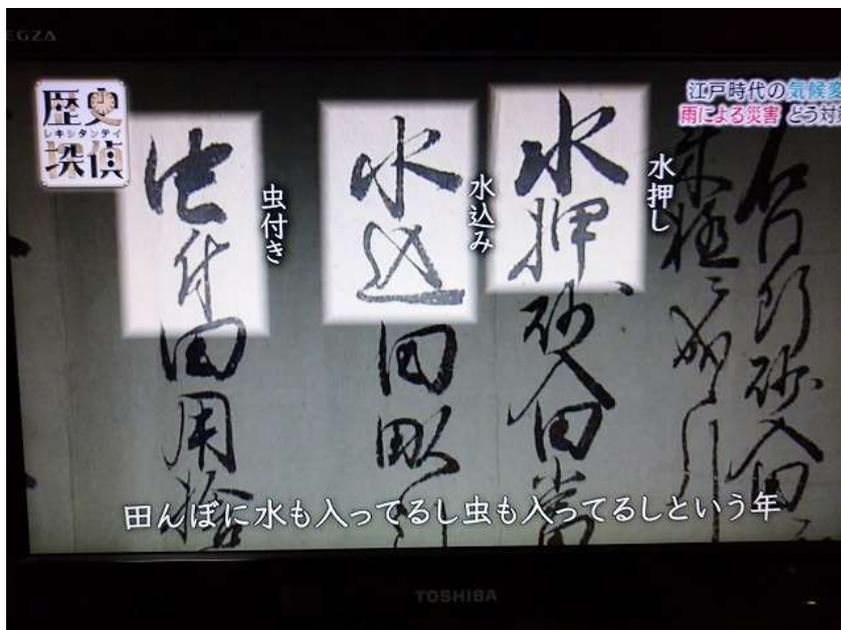


50 年おきに凶作が訪れている 今の日本の備蓄米は 6.2(190 日)カ月分  
北欧は 1 年以上だという 6 カ月分で足りるであろうか？



凶作とは「水押し」「水込み」「水付き」の三重苦

場所によっては田んぼが水浸しになり、米が全滅状態であった



幕末の凶作 言いければ「慶応飢饉」であった

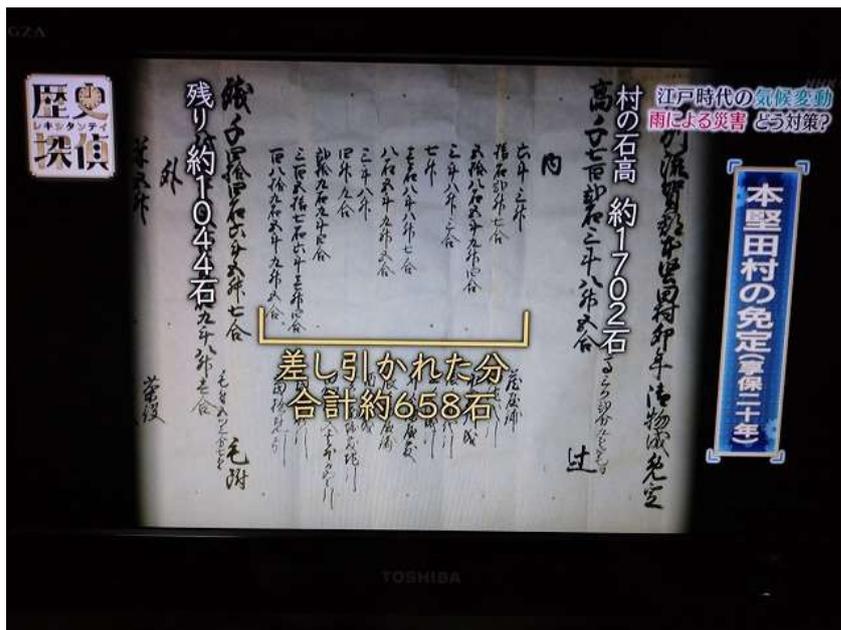
慶応の百姓一揆が「明治維新」の原因の一つであったと考えられる

仁政(にんせい)

江戸時代は農民の申請により年貢が削減される仕組みができていた

仁政とは、「恵み深く、思いやりのある政治」

今の政府にも期待したい



2030 年頃から地球は寒冷化に向かうという学者もいる

今はその前の温暖な時期かも知れない

大雨による災害が増えてきている 歴史は繰り返す

子、孫の時代は大丈夫か心配でならない

家庭の食品ロスを削減したり、木を植えるなど、できることから始めましょう

孫のお土産に飛び出す絵ハガキを買う



そんなことを考えつつ「深川飯」をいただく



地下鉄門前仲町駅から

「渋沢栄一宅跡」「佐久間象山砲術塾跡」「伊能忠敬生家跡」へ向かう

深川名物「深川飯」



江戸深川資料館前の深川飯の店「深川宿」

資料館とほぼ同時にオープンしたため 36 年経つという



店頭のメニュー テイクアウトも可能だ  
 行列ができているが、ちょうどいいタイミングで入れた



メニューは「ぶっかけ飯」と「炊き込みご飯」の2種類だけ  
 「どちらがお勧めですか？」と聞くと、  
 「時代が違うから両方をお勧めします」という  
 そこで、右の「ミニ深川飯&ぶっかけ」2365円を注文  
 どちらが、どの時代なのか



囲炉裏を囲んで

中央は茶釜 深川めしが盛られている「宿？」の器もいい



食欲をそそる

周りの客を見てもこれが一番人気のようだ

香の物は自家製のぬか漬け、味噌汁、白玉のデザートも



「ぶっかけ飯」は江戸時代に食べられていた

当時は冷や飯に味噌、アサリの佃煮を載せ、水または湯をかけた

忙しい職人にとって簡単に食べられたメニューであった

これは温かいぶっかけあさり飯  
味噌味のお茶漬けのようにサラサラと食べられる  
ネギとアサリ、味噌の味のバランスもよい  
スプーンはついていない



「炊き込みご飯」は明治に入ってからだという  
江戸時代は味噌は庶民にも手がでたが、醤油は貴重品であった  
明治になって醤油を使った炊き込みご飯が登場した  
ごはんが実にうまく炊けている



野菜の煮物と和え物の合盛り  
丁寧につくられて盛り付けもキレイだ



最後の葛切り  
箸を替えてくれている



上品な黒糖の甘さ  
銀杏型の人参のトッピングも情緒ある 器もいい



ご馳走様でした  
お土産に「深川めしの素」を買う



後日、深川めしを炊いてみる  
2合用の魚沼産コシヒカリと



土鍋で炊く

白飯を8分程炊いた後から、あさりご飯の素を混ぜて弱火で炊く



多少ムラがあるがおいしくできました

あさりもふっくらだ

残りはおにぎりにしておく



地下鉄「清澄白河」から「門前仲町」へ



隅田川にかかる永代橋方面に向かう  
地図を見ると町を用水が困んでいる  
玉川上水、神田上水は隅田川で遮断されている  
そのため本所(亀有)上水が造られた  
「赤穂浪士休息の碑」もある



しばらく歩くと右側に林が



左に石碑が見える



奥にビル



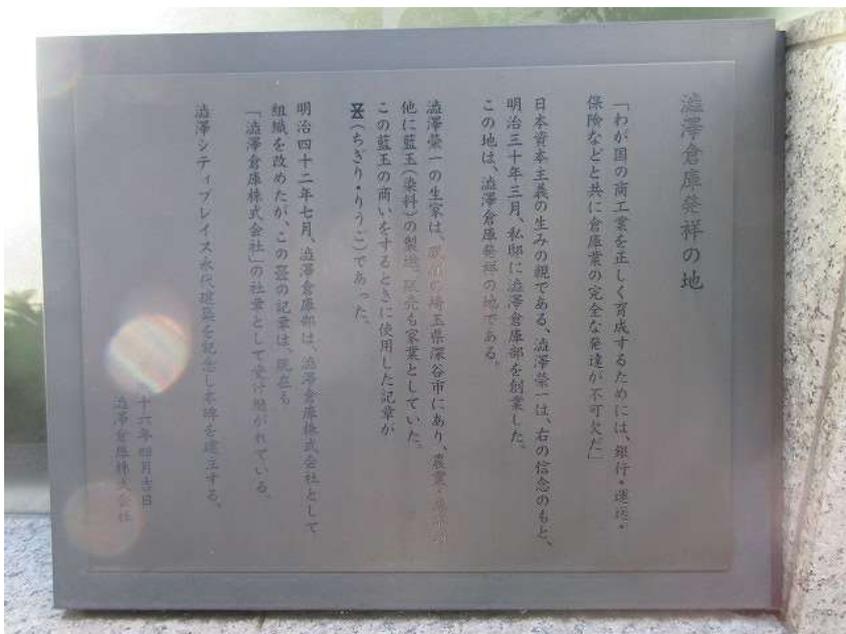
## 案内図



## 石碑



「洪沢倉庫発祥の地」と書かれている



### 洪沢栄一宅跡

明治9年(1876年)に屋敷を購入して本邸とした  
倉庫業の重要性に着目し1897年、当地に洪沢倉庫部を創業した  
それだけ大きな敷地であった



渋沢シティプレイス永代入口

日曜日であるため閉館



渋沢栄一の胸像が見える



7日放送のNHK「青天を衝け」



三菱の「岩崎弥太郎」と「渋沢栄一」  
岩崎は「官は賄賂を以て成り」と発言  
個人企業と株式会社で激論  
以後、栄一と弥太郎の溝が深まる



ピンボケで申し訳ないが

右は三井物産初代社長「益田孝」

左は東京日日新聞(現毎日新聞)社長「福地源一郎」

「大隈重信+岩崎弥太郎」vs「渋沢栄一+益田孝」の構図ができる



永代橋方面に向かう

奥のアーチ型の青い橋が永代橋



ふくしまはし



これが亀有上水か  
流れが殆どない  
右に釣りをする人



さらに進むと小さな林が



説明文が見える



「佐久間象山砲術塾跡」

この辺は信濃国松代藩の下屋敷があった場所

象山は 1850 年から諸藩の藩士に砲術を教えた

門下には、吉田松陰、坂本龍馬、佐藤弘之などの人物がいた

1854 年、吉田松陰が起こしたペリー船密航事件に連座して松代に幽閉された

その後、1864 年幕府に招かれて京都に上ったが、尊王攘夷派浪士に暗殺された 54 歳



奥の建物は東京ガスの整圧器室



伊能忠敬生家跡に向かう  
住民の方に道を聞いて、こんな道を進む



「伊能忠敬生家跡」の石碑  
説明文はなくポツンと立っている



江戸時代 17 年かけて日本全国を測量して「大日本沿岸輿地図」を完成させた  
後に日本地図の写しがシーボルトによって海外に持ち出された  
シーボルトの子供はパリ万国博覧会の幕府側の通訳  
そのため幕府の情報は薩摩に筒抜けであった



手前のシミは犬のおしっこではないか？  
気をつけて欲しい



駅に戻り帰宅  
有意義な一日であった

## 江戸東京たてもの園①

2021-11-19 17:11:26

江戸東京たてもの園

東京都小金井市桜町 3-7-1 (都立小金井公園内)

東京江戸博物館の分館



特別展示

縄文2021



## 展示品



## 今でも通用するやかん



## 縄文時代の服装

今の服装とあまり変わらない

弥生後期から着物に変わっていった



小金井付近では黒曜石は出土していない

使用もされていない



## 「縄文海進」時期の関東

縄文時代は温暖化で海面が上昇して関東は水に浸かっていた  
温暖化、海面上昇はCO2の影響だけではない



## 江戸東京たてもの園

江戸、明治、大正、昭和の建物をここに移築した



特に興味のある三井家の住宅を紹介します  
三井の歴史



【日本三大財閥】天下の三井財閥、名門の歴史をわかりや...  
タリアノ伯爵の歴史と教養じまん・  
5929 回視聴・1 年前

詳しくは

【日本三大財閥】天下の三井財閥、名門の歴史をわかりやすく解説 元商社マンである伯爵が、日本三大財閥の一つと言われる、三井財閥の歴史についてご紹介したいと思います。もともと三重県の松坂にルーツを持ち、三井越後屋、両替商、三井銀行、三井鉱山、三井物産とその事業を質量拡大に努めてきまし

た。◆◆チャンネル登録はこちら◆◆<https://www.youtube.com/channel/...> [www.youtube.com](https://www.youtube.com)



「三井八郎右衛門邸」

1952 年(昭和 27 年)港区西麻布に建てられた邸宅を移築

客間と食堂部分は 1897 年(明治 30 年)頃、京都で建てられ戦後港区に移築されたもの



案内図



三井の「番頭政治」

「青天を衝け」では「三井八郎右衛門」は登場していないが

その変わり、三井組番頭「三野村利左衛門」が登場

庄内藩士出身の三野村は親と全国を放浪していたため、読み書きができなかった

後に三井は渋沢栄一が薦める株式会社三井物産となり「益田孝」が初代社長となる



「小栗忠順(役)」

小栗は戊辰戦争において政府軍に斬首されている  
三野村利左衛門は残された小栗の家族の面倒をみた



三井財閥中興の祖

「三野村利左衛門」と「小栗忠順」との関係



【日本史】三野村利左衛門とその後「青天を衝け」でイッセ...

歴史観光JAPAN Kunibo · 3.8万 回視  
聴 · 1 か月前

詳しくは

【日本史】三野村利左衛門とその後「青天を衝け」でイッセー尾形が好演 三井の大番頭で三井財閥中興の祖 Minomura Rizaemon Mitsui Japan【日本史】「青天を衝け」に学ぶ 栄一とパリ万博 [https://youtu.be/Yuy\\_HqtSEz0](https://youtu.be/Yuy_HqtSEz0)【日本史】「青天を衝け」に学ぶ 土方と近藤

<https://youtu.be/IvMS5zL6OSc>【日本史】「青天を衝け」に学ぶ 小栗と海舟 <https://youtu.be/IZG0jCPyvow>【日本



## 案内図



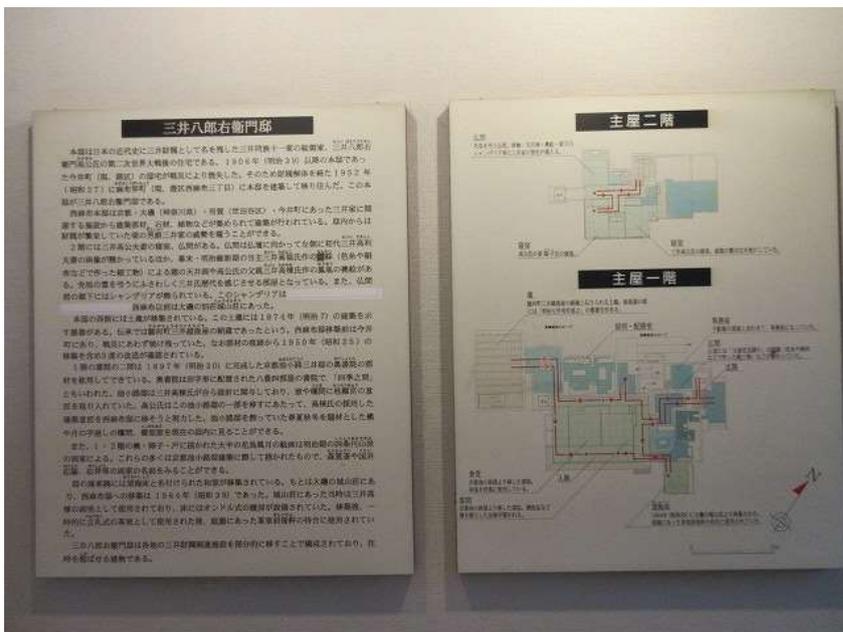
## 三井家の住宅玄関 簡単に説明します



## 鹿の銅像



## 三井の歴史と住宅の説明



当時の写真には、門に武田菱が見える



杉戸の花鳥風月画



丸山四条派の画家による作品



金箔が貼られた客間



テーブルの絵は葵か



天井とシャンデリア



家紋



ここにも



食堂も和洋折衷



天井と欄間



キッチンも洋式  
今もあるガス台とオープン  
大きなシンクとの間に冷蔵庫



盛りつけ場



裏口の扉にはこんなオシャレな窓が



庭の案内図



庭の入口



井戸の右には大きな石



庭



当時は水が流れていた



庭側からの建物



茶室



万両

これは縁起物



土蔵

日本橋の一角にあった三井越後屋(三越)の絹蔵であったと言われている



次回は「高橋是清邸」を中心に紹介します

## 江戸東京たてもの園②

2021-11-21 16:58:07

「江戸東京たてもの園」続き

江戸から昭和までの建物を移築した施設

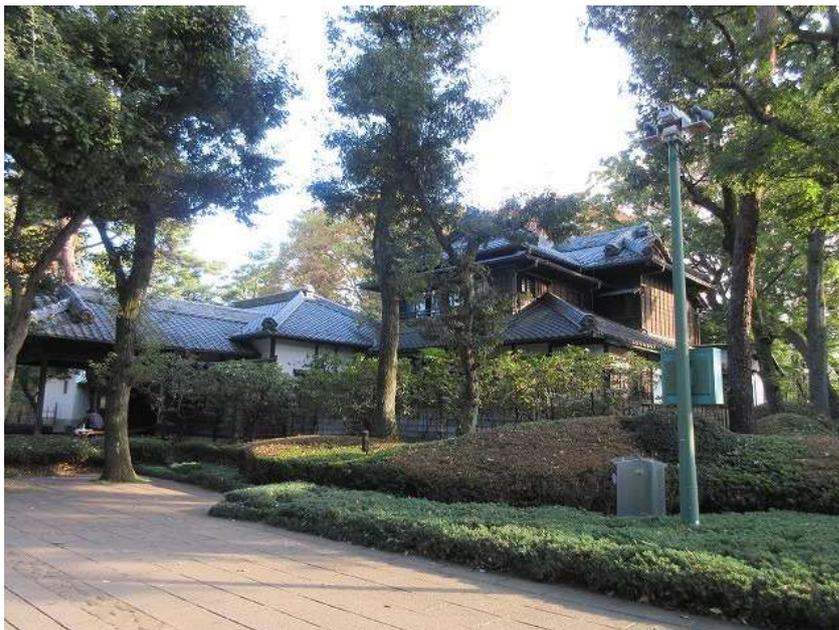
気になった建物だけを紹介します



高橋是清邸

建築年 1902年 旧所在地港区赤坂7丁目

元は丹波篠山藩青山備前守の中屋敷であった



三井物産初代社長「益田孝」、大蔵大臣(6回)、総理大臣を歴任した「高橋是清」  
どちらも我が母校、ヘボン塾(現明治学院)で学んでいるという共通点がある  
是清は日露戦争の戦費(外貨建て国債)を、イギリス銀行団と銀行家ジェイコブ・シフから調達した  
話は有名  
その借金返済は1986年まで続いた  
詳しくは

**【ゆっくり歴史解説】高橋是清 奴隷から総理大臣になった男** 留学先で騙され奴隷生活や、詐欺に遭いながらも何度も立ち上がり、日露戦争の戦費調達や、金融恐慌から日本をいち早く立ち直らせた不屈の男「高橋是清」をゆっくり解説間違ってるところもあるかも知れませんが温かい目で見えていただければ幸いです



「渋沢栄一」が日本の経済発展に貢献したのに対し、「高橋是清」は日本の経済破綻を防いだ  
銀行の「取り付け騒ぎ」が起きれば、片面しか印刷していない札束を銀行内に積み倒産を防いだ  
お金を回して景気をよくする例えもおもしろい  
今の政府も経済支援で55.7兆円を拠出  
地方は大変苦勞している 有効に使ってほしい  
詳しくは

**昭和恐慌と高橋是清【池上彰と増田ユリヤの“人類 vs 経済危機の歴史”】#4(2020年7月24日)** シリーズでお伝えします、池上彰と増田ユリヤの“人類 vs 経済危機の歴史”新型コロナの影響で経済危機が忍び寄っている中、コロナショックという言葉もうまれましたが第4回目は昭和恐慌と高橋是清について解説します。 #世界恐慌 #池上彰 #新型コロナ #経済危機 #高橋是清 #昭和恐慌 #増田ユリヤ ◆「ワー



高橋是清邸

瓦がスゴイ



説明文

たか はし これ きよ てい  
**高橋是清邸**

House of Korekiyo Takahashi

高橋是清邸は、経済界の政治家として、明治から昭和の初めにかけて日本の政治を担った高橋是清の住まいの主要部分である。是清は、奉天の丹波野山屋吉山家の中屋敷跡地約6,000平方メートルを継承し、1902年(明治35)に邸敷を建てた。総務省議の主要は、複雑な屋根構成をもっており、また高層としては真鍮を銅子瓦子を、縁取りに孝親に使用している。車庫にあった頃は、主棟のほか5棟建ての主屋や、蔵れ座敷がある大きな邸敷だった。

1926年(昭和11)、是清はこの建物の2階で青年将校の誘殺に巻き込まれた(2.26事件)。敷地と建物はまもなく東京市に買付され、記念公園となった。是清の眠る多磨霊園に移葬され、休憩所として利用されていた主屋部分が、この場所に移築された。

建築年 | 1902年(明治35)  
所在地 | 港区赤坂七丁目

This was the central section of the residence owned by Korekiyo Takahashi, a leading figure in Japanese politics during the Meiji and early Showa Periods, who was known for his role for economic. Korekiyo purchased a 6,000 sq meter plot of land in Akasaka from the Iyemasa family (belonging to the Tanba lineage) and built the estate in 1902. The central section was built mostly with wazupashiki (thatched) spruce, has an intricate roof structure and glass sliding doors separating the Japanese rooms from the wooden passageways facing the garden (which were operable at the time). At the original location in Akasaka, the large estate also included a 3-story mansion with thick mortar walls and another detached building in addition to the central section.

On February 26, 1936, Korekiyo was assassinated by a young military officer on the second floor of the building (the 2.26 Incident). Soon afterwards, both the land and the building were donated to the City of Tokyo, and the site became a memorial park. The central section was then moved to the Fano Commons, where Korekiyo was buried, and used as a rest area, but it has now been moved to its current location.

住所 | 1902  
Original location | 7-chome, Akasaka, Minato Ward

A floor plan diagram of the House of Korekiyo Takahashi. The diagram shows a complex layout with multiple rooms and a central courtyard. The rooms are numbered from 1 to 15. The central part of the building is labeled '1階' (1st floor) and '2階' (2nd floor). There are also labels for '15階' (15th floor) and '16階' (16th floor). The diagram includes a central courtyard area and a small structure labeled '1M'.

年譜

西暦	月号	年齢	事項	備考
1854	12	0	幕府御用絵師(川村庄右衛門)の私生児として生まれ、まもなく山台藩の足跡、高橋見形家に養子に出される。	
1864	元	10	横浜に移住し、へボン監禁で英語を習得。豊指再婚代子が家継等でサポート。	
1866	2	12	横浜大火で一掃焼夷後、再び横浜のイギリス系銀行の支配人、シヤンドの下でボーイとして働く。	
1867	3	13	山台藩士の海外留学への同行を許され、鈴木六次郎(如蘭)とともにアメリカへ渡航。サンフランシスコのワグネル・トーマス・オーランドのプラウザーへ、双剣売買契約であったことを後日知る。	
1868	元	14	船泊船前を知り、宇和島藩士城山静一らとともに渡米。城山の紹介で森有礼の書生となる。	
1869	2	15	設立された本学南校に入学。その後東洋館教員に抜擢。同校創立に尽力した意教師アルベキの元で寄宿。	教え子：佐野金吾ほか
1871	4	17	放蕩のため、大学南校辞職。清津藩英語学校教員として復帰へ。	
1872	5	18	清津藩南校のため清原、大蔵省十番出仕→福成学校入学。	
1873	6	19	森有礼の紹介で文部省通訳となる。	
1876	9	22	東京英語学校の教員となる。西郷従子と結婚。※明治17年、養子縁切。	教え子：松山真之ほか
1877	10	23	共立学校の英語教員となる。	
1878	11	24	東京大学予備門の英語教員となる。共立学校校長となる(学園門教員兼務)。	
1881	14	27	文部省出仕。農林省に転任。政務参事。青秀特許制成立に奔走。	
1882	19	28	日本銀行本所長。日本銀行開業。	
1884	17	30	陸奥県前知事。農商務省商標登録所所長となる。	
1885	18	31	青秀特許所所長兼務。商標登録制度研究のため欧米を視察。	
1887	20	33	特許庁、農商務省から独立。津田伝子と再婚。	
1888	22	35	官職復帰し、前山理英事案のためへいへへ。翌年、前山の死因と判明し、報復。	
1892	25	38	日本銀行本台幹造工事の建築指導主任となる。	濡れ瓦葺の工期延滞。
1893	26	39	日本銀行支店長。銀行の近代化政策として機関(下層)へ転任。翌年、日清戦争勃発後、軍事費調達のため欧米を視察。	一ヶ月で4万1千円を積み上げ18万円を集める
1895	28	41	横浜正金銀行本店支配人に就任。翌年、取締役にも選出される。	株上の土地村家屋購入
1897	30	43	横濱正金銀行副頭取に就任。日清銀行創立委員も兼ねる。日清戦争終結。金本利相簿立。	
1898	31	44	横浜正金銀行専務取締役。日清戦争賠償金のため出張。	
1899	32	45	日清銀行副頭取に就任。専務取締役の上場を拒み、本所専らに専任。	明治35年、後援銀行工
1904	37	50	日清戦争賠償。賠償事業の北米米案へ派遣される。	
1905	38	51	賠償事業成功。功績により、貴族院議員に就任される。	
1906	39	52	横浜正金銀行専務取締役。	

展示室は食堂として使われていた

床は寄木が敷かれている



廊下



障子の外は座敷牢のような構造が  
セキュリティのためか



2階へ上がる階段

ここを彼らは土足で駆け上がっていった



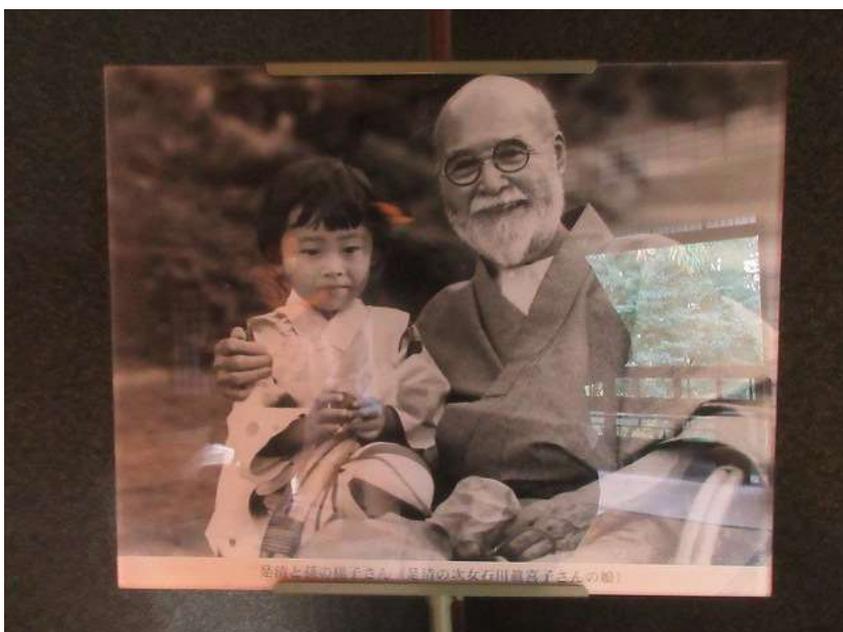
二階の座敷



書齋と寢室



いい写真だ



床の間の書

この部屋で事件が起きた



不忘念



「不忘念」とは「正法を心に念じて、忘れないようにすること」



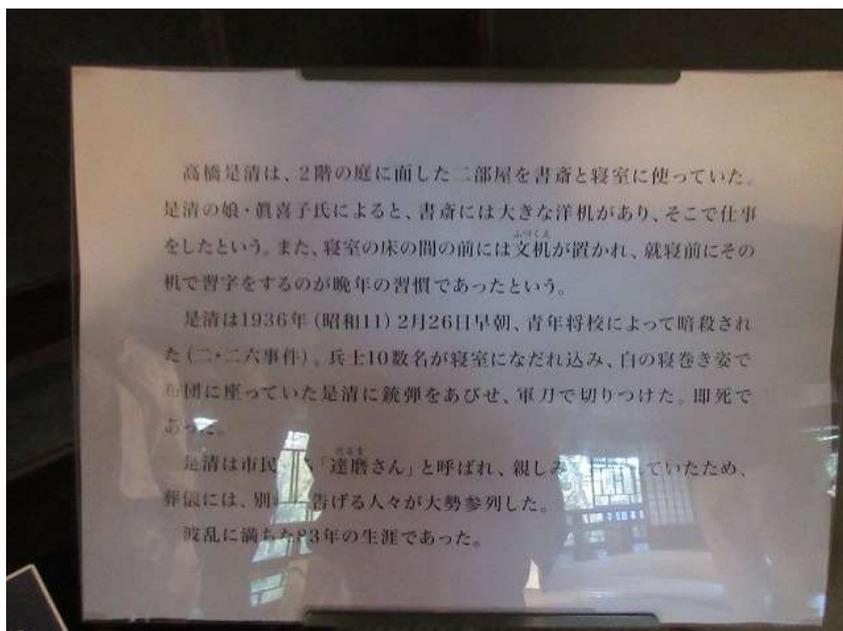
## 2. 26事件

皇道派の影響を受けた陸軍青年将校のクーデター

1936年、2月26日早朝、兵士10名が寝室になだれ込み、白の寝間着姿で布団の上に座っていた是清に6発の銃弾をあびせた

さらに軍刀で切りつけた(享年83歳)

原因は軍事費抑制によるもの



二階廊下の角

光を多く取り入れる構造

ガラスは当時のまま



2階の廊下からの景色



別邸



庭からの景色



隣は



こんな景色が



## 会水庵

大正期、茶人山岸宗住(会水)が施主となり、新潟県長岡市に建てられた山岸家東京移住に伴い吉祥寺に移築された茶室



雨とよは竹でできている



入口



内部

私は最近ではコーヒーがあまり飲めなくなり、抹茶に興味を持つようになった



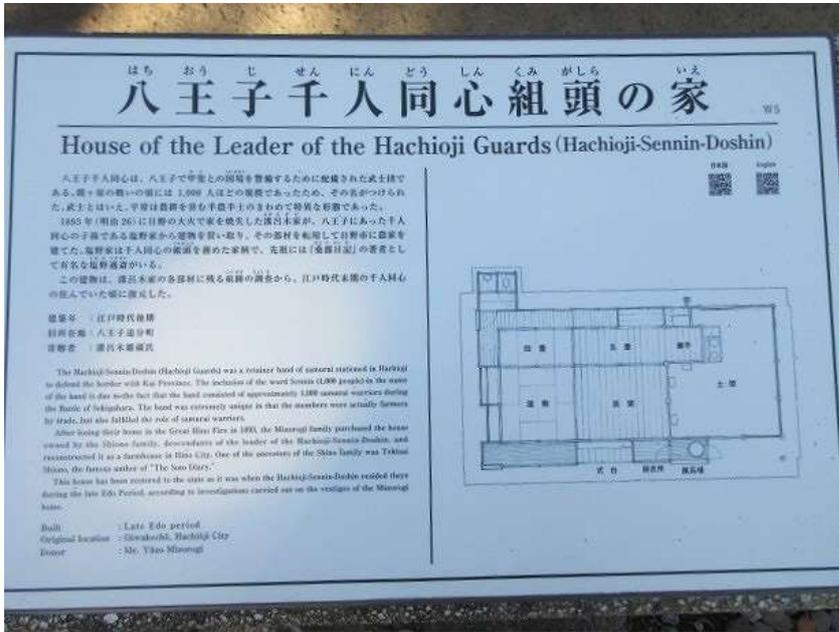
八王子千人同心組頭の家  
江戸時代後期



これはゆず？



八王子周辺に居住していた甲斐武田氏の小人集団  
 武田氏滅亡後は徳川家康の配下となる



土間と奥座敷



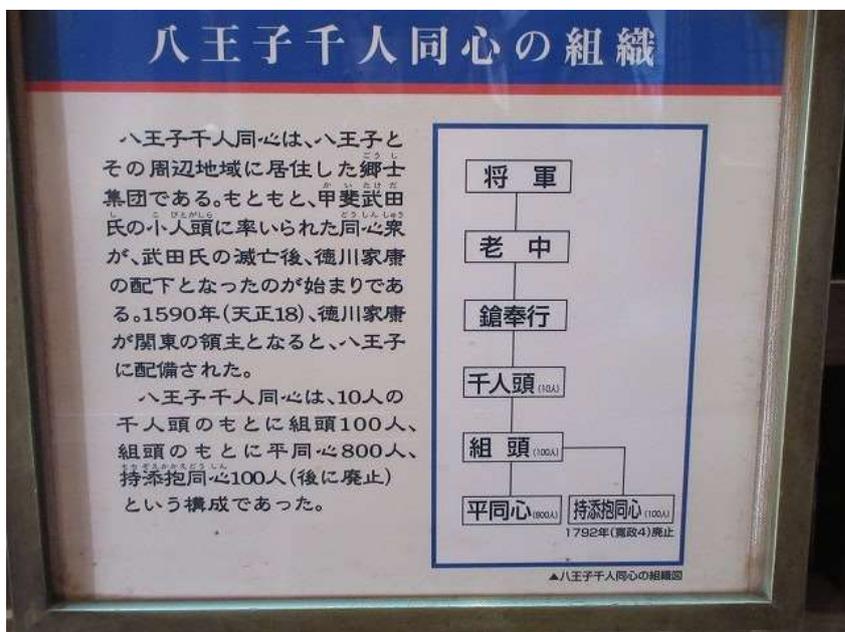
## 八王子千人同心の文化活動



## 組織

10人の千人頭のもとに、組頭100人、同心800名、持添かかえ同心100名という1000人の構成

役割は甲武国境を警備することであった



# 田園調布の家(大川邸)

1925年(大正14年)建築



鉄道省の土木技師大川栄氏が建てた住宅  
全室洋間で建てられ、中央が応接間と食堂  
女中部屋もある

でん えん ちよう ふ おお かわ てい  
**田園調布の家 (大川邸)** W7

House of Okawa in Den'enchofu

田園調布の家(大川邸)は、現在の東京都田園調布に1925年(大正14)に建てられた住宅である。この建物は、家族のための居間を中心として、そのまわりは食堂・個室・書斎が配置された「居間中心型」と呼ばれる建築形式に特徴がある。  
田園調布は、渋沢栄一によって設立された「田園調布株式会社」が開発した郊外住宅地の一つである。開業大震災から1か月後の1923年(大正13年)10月より分譲が開始された。

田園調布の家(大川邸)は、所有者が数回変わったが、1993年(平成5)まで継がれていた。建物は新築時の姿に復元し、室内は大正末期から昭和初期の生活の様子を再現している。

建築年 : 1925年(大正14)  
所在地 : 東京都田園調布有馬2丁目  
建築家 : 原善謙氏

The house of Okawa was built in the suburb of Den'enchofu (currently Den'enchofu, Ota Ward) in 1925. The particular characteristics of the house is how the dining room, bedrooms and study have been arranged around the living room.  
Den'enchofu is one of the residential suburbs developed by Den'enchofu Co., Ltd. founded by Eiji Shibusawa. The subdivided lots were set up for sale in October, 1923, only one month after the Great Kanto Earthquake.  
The ownership of the house of Okawa has changed hands several times, but it was used as a residence until 1993. The structure has been restored to its original form, and the interior has been reconstituted in getting how people lived in the late Taisho and early Showa Periods.

Built : 1925  
Original Location : 4-chome, Den'enchofu, Ota Ward  
Designer : Mr. Masamune Sudo

書齋

若いカップルの見学が多い

住宅展示場のような



当時のラジオ



## 食堂

奥に料理を出す小窓(ディシュアップ)カウンターが見える



## キッチン内

右から冷蔵庫、シンク、電気オーブンレンジ



電気オーブンレンジ

これは欲しい



氷を入れて冷やす冷蔵庫



デ・ランデ卓邸

1910年(明治43年)



今はカフェになっている

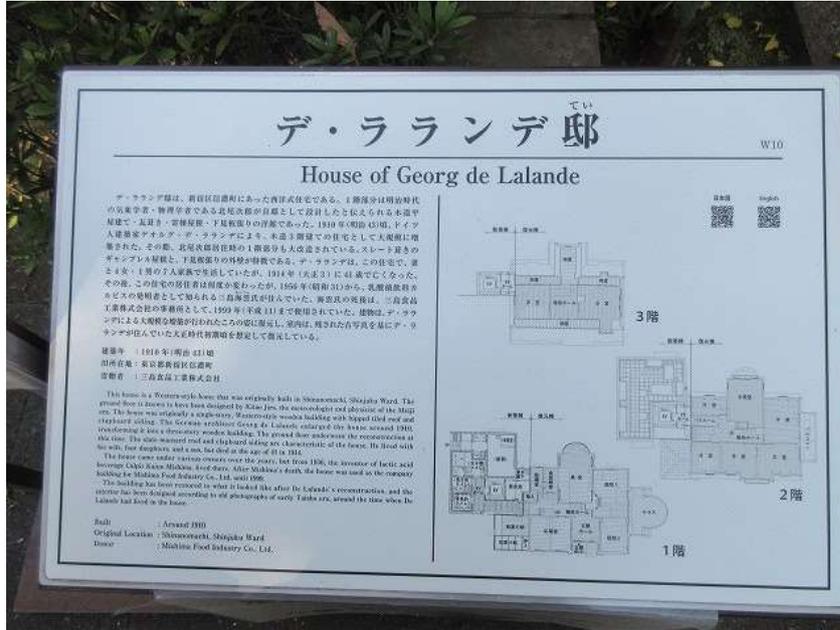


## 新宿区信濃町にあった洋館住宅

ドイツ人建築家ゲオルグ・デ・ラランデによって建てられた

居住者は何度か変わっている

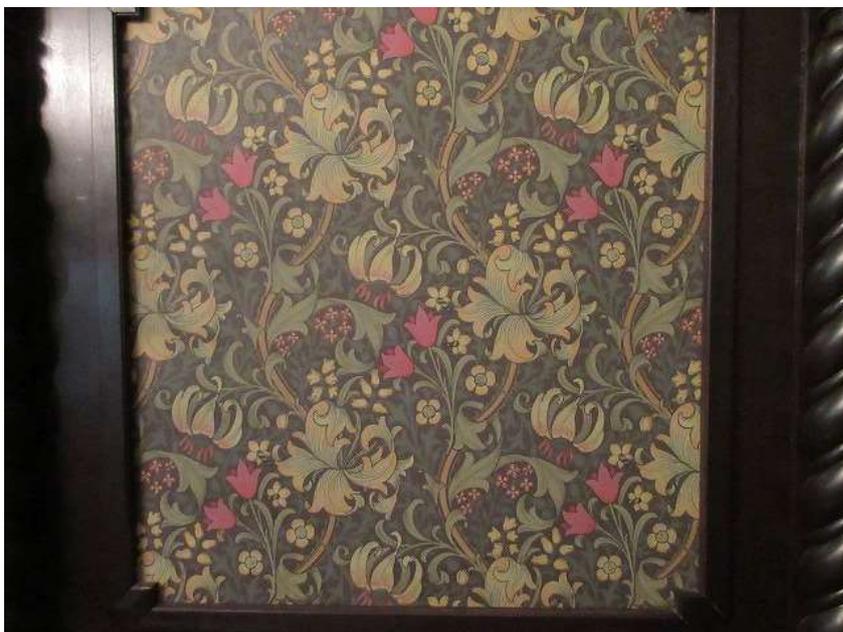
1956年、乳酸菌飲料「カルピス」の発明者「三島海雲」氏も住んでいたこともある



## メイド



壁紙



食事は「ハヤシライス」のみ  
それを注文

**Drink & Dessert & Food Menu**

<b>珈琲</b>	
有機珈琲	¥560 (税込 ¥616)
カフェ・オ・レ	¥620 (税込 ¥682)
特製有機アイス珈琲	¥650 (税込 ¥715)
アイスカフェ・オ・レ	¥620 (税込 ¥682)
珈琲フロート	¥650 (税込 ¥715)
<b>紅茶</b>	
紅茶 (1杯) (1杯/1杯)	¥560 (税込 ¥616)
特製アイス (1杯) (1杯/1杯)	¥650 (税込 ¥715)
アイスティ・オ・レ	¥620 (税込 ¥682)
<b>果汁・炭酸</b>	
葡萄果汁	¥530 (税込 ¥583)
オレンジジュース	¥530 (税込 ¥583)
ウルキソソングンジュエール [辛口]	¥600 (税込 ¥660)
<b>カルピス</b>	
ミルタカルピス	¥570 (税込 ¥627)
<b>デザート</b>	
パニラソフトクリーム	¥550 (税込 ¥605)
黒みつきなごソフトクリーム	¥650 (税込 ¥715)
味ソフトクリーム	¥650 (税込 ¥715)
特製おいもパフェ	¥800 (税込 ¥880)
<b>お食事</b>	
ハヤシライス	¥1,200 (税込 ¥1,320)

おいしいケーキや焼菓子はいかがでしょうか。  
武蔵野茶房で人気の「ケーキパフェ」や  
焼菓子を是非お試しください。

**ケーキセット** お好きなお飲物が150円引きで付られます

<p>パフェセット 和菓子のモンブラン ¥870 (税込 ¥957)</p>	<p>パフェセット フラワー&amp;ホワイト チョコのケーキ ¥780 (税込 ¥858)</p>
<p>蜂蜜ロールケーキ (1杯/1杯) ¥620 (税込 ¥682) ※お砂糖の代わりに蜂蜜を使用しています。</p>	<p>パンケーキ(プレーン) ¥570 (税込 ¥627) ※お砂糖の代わりに蜂蜜を使用しています。</p>

**武蔵野茶房の焼菓子**  
※ ¥185 (税込 ¥199)~

武蔵野茶房 ドリッグ珈琲  
1杯 ¥150 (税込 ¥162)

出てきた



左上はヨーグルト、左下はピクルス  
混んでいることもあり、残念なことに冷えている



食後はコーヒーと菓子  
コーヒーはおいしかった



武蔵野マドレーヌ



旧自証院全霊屋

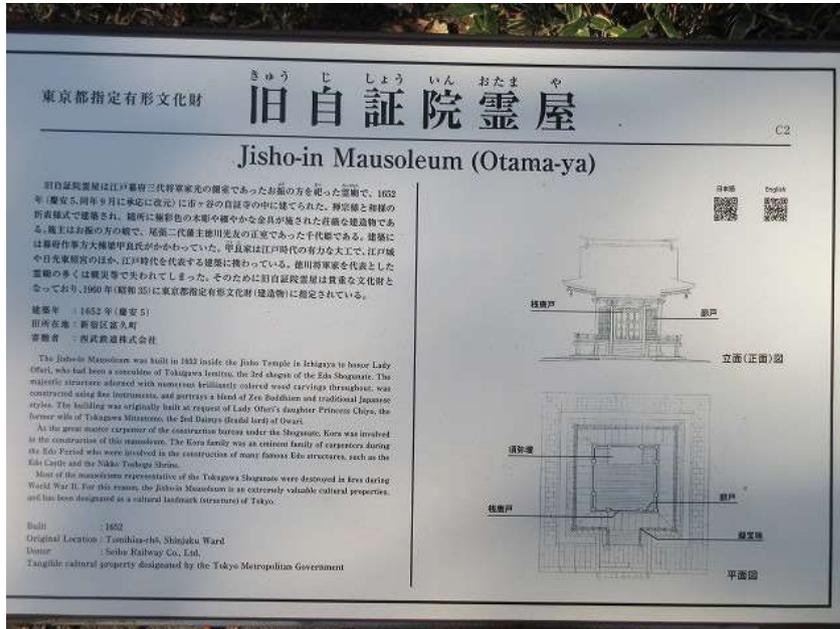
1652 年(慶安 5 年) 新宿区富久町



内部の蓮の絵



徳川三代将軍「家光」の側室「お振お方」の霊廟  
娘の「千代姫」が施主



伊達家(宇和島伊達家)の門  
大正期 港区白金2丁目



## 伊達家の家紋「三引両」



## 伊達家の門

旧宇和島藩伊達家が東京に建てた屋敷の門

宇和島伊達家 8 代藩主「伊達宗城」は「青天を衝け」の「王政復古の号令」の場面にも登場している「四賢候」

残りの三賢候は、福井藩「松平春嶽」、土佐藩主「山内容堂」、薩摩藩「島津斎藤彬」

橋を渡り次の展示場へ



次回は大正～昭和の建物を紹介します

### 江戸東京たてもの園③

2021-11-24 17:00:06

江戸東京たてもの園続き

興味のある所だけ簡単に紹介します

この街燈は見たことがあるような気がする

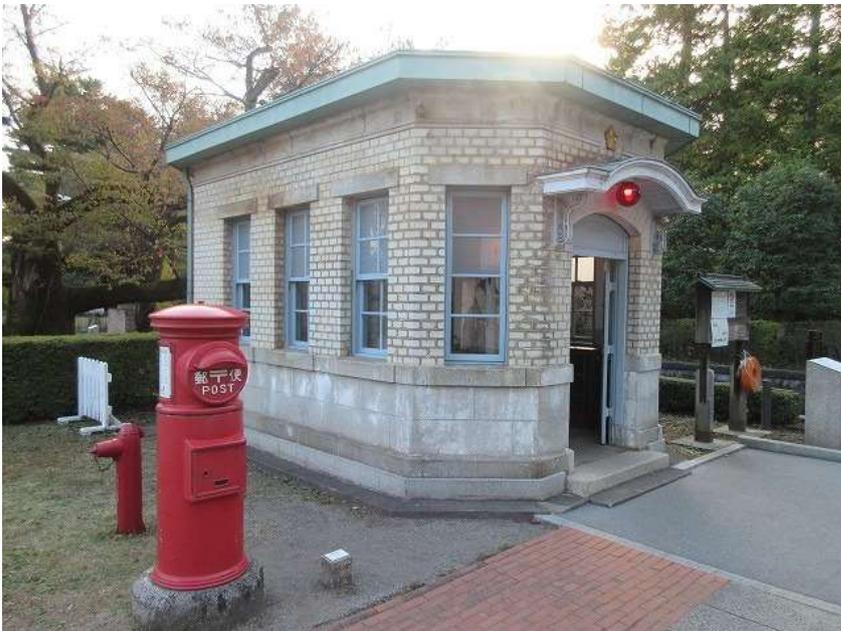


皇居正門石橋飾電燈

橋の欄干に6基設置されたものの一つ



交番



寢室



神田の万世橋のたもとにあった交番  
 関東大震災で被害を受けたが、後に復元された



上野消防署 望楼上部



# 半鐘



# 櫓の上の部分



右の昭和の街並みを見学



昭和の街並み



正面が「子宝湯」  
週末は人が出るようになった



1929年(昭和4年)、足立区千住元町に建てられた銭湯



唐破風の下に「七福神の宝船」



番台

どこを見ても階段がない



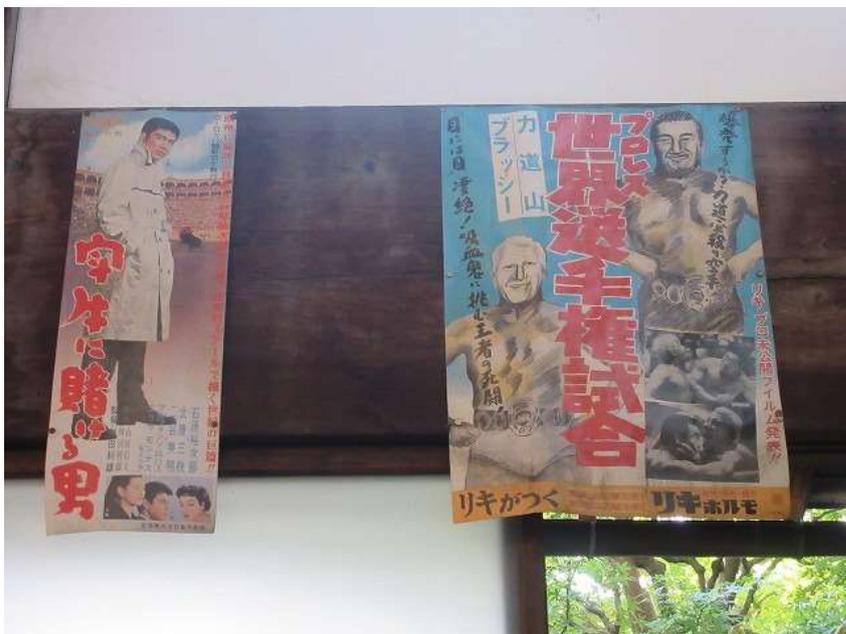
富士山の絵



女風呂との境と高い天井



力道山のプロレスのポスターと映画のポスター



銭湯の浮世絵



## 隣の居酒屋「鍵屋」

ポンペイの遺跡でも、ローマ風呂の隣には居酒屋があった



1856年に酒問屋として台東区下谷で営業

1949年、本格的居酒屋として営業を始めた

### かぎや 鍵屋 Bar "Kagiya"

E3

鍵屋は下谷本町(現、台東区下谷)にあった居酒屋である。1856年(安政3)酒問屋として創業したと古い伝えられ、酒の小売店を経て1949年(昭和24)から居酒屋の営業を始めた。手頃な値段で甘く酔かに飲むことのできる鍵屋は地域の人がと、職人、サラリーマン、老人などに支持されていた。また常陸風と主人の人情を愛して小籠家の内田百閒などの著名人も多く通っていた。

鍵屋は当初平屋だったが、大正期頃に2階部分を増築した。震災・焼火をまぬがれ今なお江戸時代末期の面影をともめている。

建物と店内は居酒屋として営業していた1970年(昭和45)頃に復元している。

建築年 : 1856年(安政3)  
旧所在地 : 台東区下谷二丁目  
再建者 : 清水幸太郎氏

The bar "Kagiya" was once located in Shimizu-chohannin (today Shinjuku, Tokyo Ward). It is said that the bar began in 1856 as a liquor wholesaler, and through its retail business, it was later launched into the bar business in 1888. With its reasonable price range of good liquor and quiet atmosphere, the bar enjoyed a good reputation among the local residents, craftsmen, businessmen and politicians. The bar was frequented by many notable figures, for example, the novelist, Hyakken Ukiwa, because of its comfortable atmosphere and the owner's sensible personality.

Kagiya used to be a secondary building at the beginning, but an upstairs floor was added around the Taisho Period. It has survived both earthquakes and wartime devastations, so preserve something that remains as of the time in the late Edo Period.

The structure and its interior have been restored to resemble a bar in business around 1905.

Built : 1856  
Original location : 2-chome, Shinjuku, Tokyo Ward  
Owner : Mr. Kojima Shinzou

2階

1階

立ち飲み屋



酒の徳利



電気冷蔵庫



小寺醤油店



昭和初期に芝区白金台に建てられた「出桁造り」の住宅兼用建物



史料館



## 醤油の流通と販売



## 酒屋の始まり

### 日本酒とウィスキー



ブルドックソース



サンヨーのみつ豆缶詰  
子供頃はあこがれの商品



「初恋の味 初夏の味」カルピス  
これは覚えている



ノザキのコンビーフ



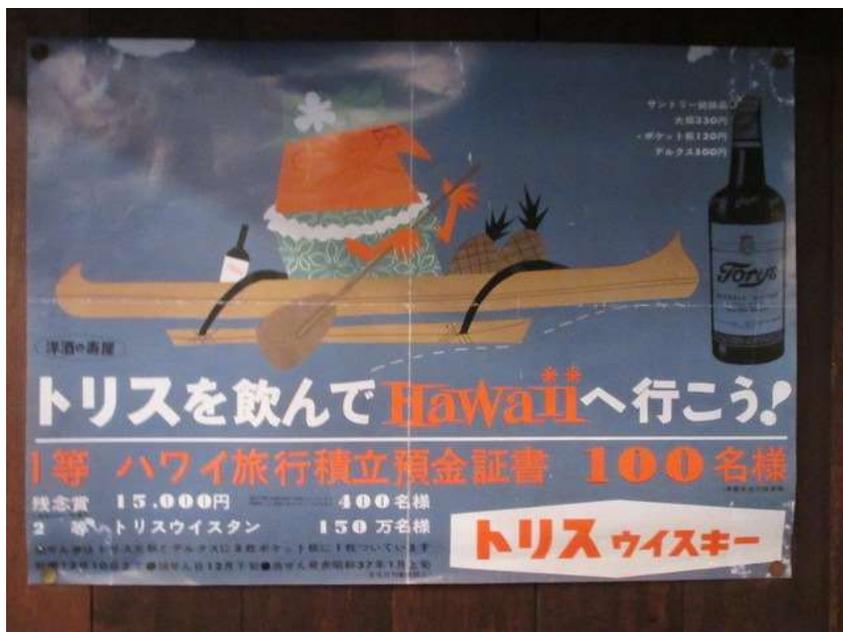
寿屋(サントリー)の創業者である鳥居信次郎が 1907 年に発売した「赤玉ポートワイン」  
ワインと言えはこれであった



サントリーのエンブレム



「トリスを飲んでハワイへ行こう」  
このキャンペーンも覚えている



当時のレジスター



大和屋本店(乾物屋)



たばこの販売も



1928年 港区白金台の目黒通りにあった乾物屋



かつお節とスルメ



リベスランポリ？  
これは記憶にない



丸二商店(荒物屋)



昭和初期 千代田区神田神保町三丁目

昭和初期に建てられた「看板建築」



手前は買い物籠

弁当箱と大根おろし



乾燥したヘチマ

風呂で垢すりに使われた



水筒

子供の頃遠足に持って行った記憶がある



湯たんぼ



五徳

囲炉裏で上に鍋ややかんを置いた



井戸のポンプ



金属からホーローの看板に変わっていった



土管で遊ぶ子供たち  
昭和の風景だ



昭和の乗り物  
路面電車



運転席が両側にある



ボンネットバス



蒸気機関車「C57」



機関室



運転席の窓からは正面は見えない



公園の陶器市



ここで、美濃焼の茶碗と茶笥(ちゃせん)を買う  
武蔵小金井のヨーガ堂で抹茶とまんじゅうを買う  
スーパーマーケットも茶碗と茶笥、茶さじの品揃えが欲しい



茶筌お先は丸まっているが使うと次第に伸びてゆく



ネットを見て素人なりにお茶を点(た)てる

抹茶は「ながら飲み」はできない

「ちょっと一服」

お茶のぬくもりを感じながら、落ち着いたいい時間を過ごせた



いい一日でした

次回は「青天を衝く」関連

王子の渋沢栄一邸「飛鳥山公園」と谷中の徳川慶喜の墓、渋沢栄一の墓のある「谷中霊園」を紹介  
します